

第35回 仙台市広瀬川清流保全審議会議事概要

- ◆ 日 時 : 平成21年10月9日(金) 午前10時30分～
 - ◆ 場 所 : 市役所本庁舎 2階 第四委員会室
 - ◆ 出席者 : 《審議会委員》(15名/16名)
 - 飯尾 正彦 仙台弁護士会
 - 石黒 大 (社) 仙台青年会議所副理事長
 - 伊藤 直司 宮城県土木部長 (代理: 大泉副参事兼河川課長補佐)
 - 内田 美穂 東北工業大学環境情報工学科准教授
 - 加藤 一男 宮城管内町内会長連絡会
 - 金子 賢司 広瀬・名取川漁業協同組合理事
 - 小浜 暁子 東北工業大学環境情報工学科准教授
 - 近藤 初音 (財) 日本野鳥の会宮城県支部
 - 佐藤 由香 仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会
 - 菅原 賀寿美 作並温泉旅館組合
 - 田上 澄雄 国土交通省東北地方整備局河川部長 (代理: 宮崎河川環境課長)
 - ◎西村 修 東北大学大学院工学研究科教授
 - 西山 浩一 (社) 宮城県建築士会仙台支部
 - 松澤 保佑 北部広瀬川愛護推進協議会顧問
 - 宮城 豊彦 東北学院大学教養学部教授
- (◎: 会長 ○: 副会長)

《事務局》

- 高橋 秀道 建設局長
- 栗和田 幸夫 建設局理事兼次長
- 西堀 耕造 建設局次長
- 身崎 尚 建設局百年の杜推進部長
- 宮城 重通 建設局百年の杜推進部公園課長
- 川上 正博 建設局百年の杜推進部青葉山公園整備室長
- 石井 鉄雄 環境局環境部環境対策課長
- 森 研一郎 交通局東西線建設本部建設課長
- 小坂 幸一 建設局百年の杜推進部河川課長
- 柴田 政喜 建設局百年の杜推進部河川課広瀬川創生室長

- ◆ 欠席者 嶋崎委員
- ◆ 司 会 広瀬川創生室長

1 開 会

2 議 事（報告事項）

- (1) 青葉山公園仙台北丸跡等崖地崩落防止工事について
- (2) 地下鉄東西線工事に伴う西公園自然崖部の復旧について
- (3) その他

3 閉 会

(司会)	(開会) ただ今から「第35回仙台市広瀬川清流保全審議会」を開会する。
(司会)	(会長及び副会長の選出) 会長，副会長の選出をお願いする。広瀬川の清流を守る条例施行規則第3条に「審議会に会長及び副会長を置き，委員の互選により定める」と規定されている。会長，副会長の推薦はないか。
松澤委員	会長には，前任期中に会長を務められた西村委員に引き続き会長を務めていただきたい。また，副会長には宮城委員にお願いしたい。 －異議なしの声－ －西村委員・宮城委員了承－
(司会)	全会一致ということなので，会長は西村委員に，副会長は宮城委員にお願いしたいと思う。 それでは会長，副会長より挨拶いただいと思う。
西村会長 宮城副会長	(会長挨拶) (副会長挨拶)
西村会長	(議事) それでは，議事を進めるが，その前に，いくつか確認事項がある。 まずは，会議の公開・非公開についての確認である。本日の議事には非公開となる事案がないので，公開としてよろしいか。 －委員了承－

西村会長	<p>それでは公開とする。</p> <p>次に、傍聴されている方には、会議の円滑な運営を図るため、お配りしている会議中の注意事項を厳守いただくようご協力の程お願いします。</p> <p>次に、「議事録署名人の指定について」だが、これまで本審議会では議事録作成事務の効率化という点から、全委員が署名をするということではなく、会長である私と、アイウエオ順で委員の方1名が代表して署名して確定する、ということで行ってきた。今回以降もそのような方法で行っていきたいが、いかがか。</p> <p>－委員了承－</p> <p>それでは本日の議事録の署名につきましては、アイウエオ順で飯尾委員にお願いしたい。</p> <p>－飯尾委員了承－</p> <p>(議事)</p>
西村会長	<p>それでは、議事に入る。まず、「(1) 青葉山公園仙台城本丸跡等崖地崩落防止工事について」事務局から説明をお願いします。</p>
青葉山公園整備室	<p>事務局説明 (資料6により青葉山公園整備室より説明)</p>
西村会長	<p>ただいまの説明に対し、委員の皆様から意見・質問等があればお願いします。</p>
西山委員	<p>種子吹き付け部分、本丸の東側崖地の種子吹き付けに使用する種子の種類について、P.16に在来種とある。その種類としてP.21にススキ・ヨモギ・イタドリ等の種子混入とあるが、現存する植生の中に含まれているということか。</p>
青葉山公園整備室	<p>はい。現存のもので確認されているのは、ヨモギ・イタドリが周囲に確認されている。基本的にはそちらを使う。法面対策には西洋種のクローバー等を使うことが多いが、この場所についてはそういったものは避けたい。そのようなことを前提に鈴木教授等に意見を諮ったところ、2種類よりも3種類で行った方が法面保護には有効であり、さ</p>

<p>西山委員</p>	<p>らに何かを加える時はどういった方法があるかということで、ススキの方もリスト加えた。実際も法面下の方に群生しており、さほど現地の景観を阻害しないと考える。</p>
<p>青葉山公園整備室</p>	<p>ススキは背丈が大きくなると認識しているので、上部に吹かれて生長したときに、こちらの見学にこられた方の視界の邪魔にはならないかという気がした。</p>
<p>西山委員</p>	<p>(スクリーン参照)当初から先生に指導いただいていた部分においては、法肩のツタ関係で崖面を覆う考えがある。ツタは伸びる速度が遅いので、伸びるまでの期間、崖の表面が落ちるのを種子の吹き付けで併用する考えである。最終的にはツタ系のものが遷移していくということで、ススキ等は一時的な法面の保護ということである。その後は公園としての管理をしていくので、年に何度か草刈等で阻害されるようなススキ等は管理していけると考えている。</p>
<p>田上委員代理</p>	<p>承知した。</p>
<p>青葉山公園整備室</p>	<p>イタドリが入るということで現地にもあるということだが、通常イタドリが優占種になるということはいろいろな所であって、けっこう背丈が伸び、そうすると、下草が生えなくなる。要するに、ツタ・ヨモギをせっかく植生に入れているが、多分イタドリが優占種になって光が届かないので、恐らく他の植物がだんだん少なくなっていってしまうのだと思う。そうなったときにせっかく上にツタを植えても優占種にならないのではないかと思う。その辺も先生に相談された方がいいのではないか。堤防では芝が生えなくなるので、イタドリを全部切っている。そういうこともあり、この法面にイタドリを植えた場合、非常に強い植物なので優占種になってしまうのではないのかなという心配がある。堤防とかでは雨水で持っていかれるので、基本的にイタドリは全部取ってしまっている。そういうことから考えるとどうかなという気が若干する。</p>
<p>青葉山公園整備室</p>	<p>資料の9, 11, 13ページの写真を拝見すると、崩落の原因が雨水であるというような話もあるが、場所的に恐らく水道になってしまっているとか、雨水配水管が出ているというようなこともあるかと思うが、その辺の処理はどのようにお考えなのか。</p>
<p>青葉山公園整備室</p>	<p>(スクリーン参照)こちらは、本丸の広場を受ける崖で、今回雨水の浸食とあわせて本丸広場部分から落ちてくる水ということで、今まで</p>

	<p>の3箇所の櫓跡についてもどんどん後退していった、結果的に本丸広場が無くなった経緯がある。本丸広場側の排水についても、現状で法肩に側溝が入っているが、非常に小さい規格のもので、今回の工事に合わせてワンサイズ大きいものに敷設替えを行い、その排水も今までは流すところが無くポンプアップしたものを、目線の位置にある管等を利用して。今回の工事施工と同時に縦配水管を敷設し、法面の下部分にある既設の集水柵に抜き、広場部分の排水もカバーするというようなことで考えている。</p> <p>イタドリの件については、懸造跡、巽櫓跡等でも見られる植栽であり、ご指摘のとおりかなりの高さで植生している状況である。その辺も心配なので、鈴木先生にイタドリの高さについて相談をしたが、種子を混入する場合、オオイタドリではなくてイタドリであればなんとか良いのではないかとということであった。今回の種子の選定については、史跡なので奈良文化財研究所で出している遺跡の法面保護という資料を参考に種子の選定をしようとしたが、在来種での候補がなかなか無く、先ほど説明した、イタドリ・ヨモギ・ススキでしかフォローが出来なかった。まずは、最初の施工時の法面保護については、とりあえずそれを使って押さえて、遷移についてはツタ系で覆うような管理が出来ればと考えている。イタドリの件については、今後の検討課題になる。</p>
田上委員	了解した。
西村会長	<p>いろいろと丁寧に検討していただいているというのはよくわかった。なかなか予想通りにうまく行くかどうかは自然が相手なので、今日のいろいろな意見を踏まえて再度相談していただければと思う。</p>
近藤委員	<p>ツタが生えて覆うのも時間はかかるが、モルタルは最初白々しい。ツタが下りてくるまでは時間がかかると思うが、モルタルよりは寿命が短いと思う。モルタル吹き付けというのは何年ぐらいの寿命があるのか。</p>
青葉山公園整備室	<p>(スクリーン参照)ここで紹介した施工例については、昭和53年の宮城県沖地震のときに大規模な石垣修復が必要だといったような検討の他に、崖面の対策というのも仙台市で調査している。この部分については背面に大きな石垣を背負っていることから、緊急的な対策が必要だということで昭和62年の施工である。したがって、20年以上経った今でもこういった堅固な状態である。一般的には30年から40年ぐら</p>

<p>近藤委員</p>	<p>いはもつといわれている。他の事例でも、かなり前に吹き付けたモルタルが崩落したという事例は数少ない。</p> <p>この工事は昭和60年近辺なので、20年以上この箇所でも持っている。イメージ的にモルタルというとボロボロ剥がれるという感覚があるかもしれないが、安定した工法である。</p> <p>了解した。</p>
<p>内田委員</p>	<p>竜ノ口に関して、現在の状況を教えていただきたい。最後の方で、No.1とNo.2でNo.1の方までは人が来ないが、No.2の方には割りとは人が来るとのことだが、しばらく前に竜ノ口に行って水を取ろうと思ったときに入れない感じであったが、最近、家族が化石を採りに行っている。現況としては、誰でも自由に八木山橋の下の方まで自由に行けるような状態になっているのか。また、注意案内看板等の標示はあるのか。</p>
<p>青葉山公園整備室</p>	<p>今年度のはじめまで、青葉区道路課の方で八木山橋付近の崩落した工事を行っている関係で、ゲートについては閉じていた時期があった。現在はオープンにしている。それ以降に青葉山公園整備室で危険箇所調査を実施し、その中で危険箇所No.1・No.2があげられた。特にNo.2については、先ほどの説明にあったように崩落した場合の落石が歩行動線に近いということがあり、早急の対策として青葉区役所の施工で注意喚起の落石注意看板を設置した。</p> <p>工事はどうしても来年以降になってしまうので、それまでの暫定措置として落石注意喚起の看板と、クラックが進んでないか、実際落ちている状況はどうかという定期的な観察を平行しながら、今年度については進めていきたい。</p> <p>現時点ではゲートは開放されている。化石の観察等は出来るようになっていくが、その場合自己責任でということになる。</p>
<p>宮城副会長</p>	<p>いくつかお伺いしたい。まず仙台城の崖面だが、P.15に本丸跡地崖地の概念図があって、その中で整地層と青葉山層というのがだいたいターゲットの地層になっている。ここに模式的に描かれているものを見ると、整地層のところの崖面がほぼ垂直にたっていて、青葉山層のところは砂利だと思うが、上が急で下が緩やかそういう形になっている。実際にその現場の断面を見ると、どちらかというところではなくて、上の方が緩やかで下の方が急な感じになっている。実際この崖面は実測して得られた結果なのか。</p>

	<p>次に、ちょっと気になるのが、植栽は鈴木先生の言うとおりで基本的にはそうなのかなと思うが、下側のモルタル吹き付けのことで、結構時間が長い間ツタで覆うということを最終的に目指しているのか。そうすると何年くらいを考えているのか。というのは20年前に宮城沖地震の後で造成したものが、今でもむき出しになっている状態である。もしそれを行うならかなり色調なんかについても気配りが必要ではないか。モルタルでいうと、実は結構いろんな所で施工方法によって非常に劣化が激しかったり、モルタル吹き付けの裏面の表面水で隙間ができて浸食していったりということがある。そういうことで言うと、むしろ崖面の天場の排水処理を今度受けを大きくするとか、かけ流しのものをつくるとか、是非その辺の処理を丁寧に行っていただくことが大事かと思う。</p> <p>最初の方の断面は実測なのかどうか。</p>
青葉山公園整備室	<p>まず、今回の業務に当たっては測量から設計まで一貫して行っている。こちらの断面については実測を行っている。基本的には整地層の方が比較的緩くて、青葉山層が急崖になっている。こちらのイメージ図の方が実測であり、こちら図面（スクリーン参照）はイメージ図である。</p>
宮城副会長	<p>もう一つ。竜ノ口のNo.1の方は直接崩落しても人が歩く動線上には影響がないとあったが、断面で見るとイメージのデータでよく分からないが、No.1のところでは不安定岩塊のところまでで高さが約30mある。人が歩くところまでの水平距離はどれくらいあるのか気になる。こういう場合、普通はある程度のスパンを確保できるかどうか大きい問題であり、基本的な問題かと思う。39番目のスライドである。</p>
青葉山公園整備室	<p>実際こちらの概念図は先程の崖地のとは変わって、こちらはまだ測量をしておらず、調査のみで危険箇所を抽出した。崖地の離れ自体もかなりそういう意味では実測がしきれない地形条件と、こういった岩がかなりゴロゴロしている状況で、水平距離が測りきれない現場条件である。実際の何mというのは今示せない。地形的に私も全景写真のようなものを撮りたいと思ったが、フレームに入らないような離れになっている。</p>
宮城副会長	<p>基本的に岩盤崩壊とか表層崩壊の場合には、高さのHに対して2Hを取るということはあるが、この場合にはそれよりは距離があるのか。</p>

青葉山公園整備室	そこまでは2倍の距離は取れてない。
宮城副会長	この真ん中にある岩塊はどこから来たのか。
青葉山公園整備室	<p>ちょうど、先ほどのイメージ図がこの岩塊を想定して描いたものである。一応パズル状にちょうどまさにこれと確認できる。それが落ちた位置が斜面の真ん中となっている。ちょうど見切れている青葉区で施工した箇所については、砂関係が落ちていて下部分に場にそぐわないサラサラした土があるので確認できる。基本的には大きい石は歩行動線の前に木とかがかなり茂っているので、そこで止まっている現状である。</p>
宮城副会長	植生の効果もある？
青葉山公園整備室	そうである。
宮城副会長	了解した。
加藤委員	<p>お聞きしたい点が2点ほどある。説明の施工ではモルタル吹き付けあるいは金網、アンカーということだったが、これはあくまで永久というようなことではないと思っている。何十年もつということだと思うが、例えばモルタル施工の場合は、下からの雑草ヨモギや何か抑えるということもあるが、今回はあくまで雨水の抑えだと思う。</p> <p>落石防止については、アンカー施工あるいは金網ということになると思うが、金網にも寿命があるので腐れてくると思う。そのような施工をして何年ぐらいの考えなのか。</p>
青葉山公園整備室	<p>まず、モルタルの施工で、本丸部分の話だが、前例としての石垣付近の施工については今現在少なくとも20年は持つるので、30年・40年オーダーで持つのではないかと考えている。他に、もっと強固な施工方法は多々あると思うが、こちらの区域は広瀬川の条例の区域であると同時に、国指定の仙台城跡という国指定の文化財史跡の区域でもある。そのようなことから大きく切土して安定勾配をとるといった工法ができない現場である。その中で文化財への影響も加味した形で、永久的な工法となるとどんな工法でもなかなか難しいかと思うが、なるべく史跡にも負荷をかけずに、現状で問題となっている部分の崩落防止が図れる工法として選定した。</p> <p>竜ノ口の方については、基本的にはネットで覆う。落石時、ガチガ</p>

	<p>ズに固めるというよりも、むしろ落石したときはネット沿いに落ちることによって、歩行者に危険が及ばないようにするというような考えである。実際、落石が次々に起これば当然ネットの張替的な工事を再度行わなければならない訳だが、竜ノ口の現場についてはもともと景観に優れていて積極的に公園利用者を誘導するというよりも、研究者の方や愛好者の方が、化石の散策であるとかそういったことを目的に楽しめるような雰囲気づくりが大事になってくると思う。そういう中で、持ちのいいような大規模な工法と言うのは竜ノ口についてはあまりそぐわない。場所分けと言ったら変な話だが、そういった考えで選定した。</p>
加藤委員	<p>了解した。</p>
西村会長	<p>(2) 地下鉄東西線工事に伴う西公園自然崖部の復旧について それでは、続いて「(2) 地下鉄東西線工事に伴う西公園自然崖部の復旧について」、事務局から説明をお願いします。 また、本日は事務局の方からイメージをわかしていただくために、自然崖の石を実際に持って来てもらったので、説明を聞いていただきながら、委員の皆さんにご覧いただきたい。</p>
東西線建設本部 建設課	<p>事務局説明 (資料7により東西線建設本部建設課より説明)</p>
西村会長	<p>ただいまの報告に対し、委員の皆様から意見、質問などあるか。</p>
金子委員	<p>説明では崖と調和するよということだが、下は人が作る地下鉄なので、上に展望スペースを人的に作ってしまうというP.22の展望スペース案が私は良いのではないかと思う。無理に崖、自然を残すというのではなくて、下に地下鉄が入っているので上もきちんと工法を持って決めてしまった方が、景観的にもいいと強く思った。</p>
田上委員代理	<p>この案の比較の中では、コストの観点が抜けている気がする。各案のコスト比較はしているのか。</p>
東西線建設本部 建設課	<p>コストについては、これからの絞込みの中でもう一度検討していきたいと考えている。全体のコストとしては、いずれの案を選んでも私どもの感触としては、あまりオーバーなものにはならないのではないかと期待している。具体的なコストはこれからの絞込みの中で検討し</p>

<p>西山委員</p>	<p>ていきたい。</p> <p>ちょっと気になったのは、展望スペースを作った場合、模型の写真を見ると路線方向には良く見えるようだが、実際には上の方からどのように見えるか。また、広瀬川の方からはどのような感じに見えるか視覚的にわかるような資料があると判断しやすい。樹木がどれくらいかぶって、見えたり見えなかったりするのかが気になる。この模型の写真では、実際に出来る位置より高い位置からの視点になるかと思う。</p>
<p>東西線建設本部 建設課</p>	<p>写真の視点場の高さは、園路の高さよりかなり高い位置だと思う。現在、周辺に公園の樹木がかなり繁茂していて、背景となる青葉山自体も見えないという状況である。ただ、工事においては地上から掘る、開削するという事で、一定範囲の樹木を一時的に伐採しなければならぬ状況である。その点を含め、視点場からの眺めというのは、今後の検討の中に加味した上でご説明できるようにする。</p>
<p>田上委員代理</p>	<p>先般、新聞で国際センター周辺の地域づくり的なことを拝見したが、その辺との関連もあるのか。桜の小径とかの関係などによっては全体の景観とか、本当に展望広場があるのかいないのかわからないのだが。</p>
<p>東西線建設本部 建設課</p>	<p>まず、桜の小径については工事、鉄道の敷設によって高さ的に桜の小径が分断されてしまう。その対応策として鉄道の上まで持ち上げて前後にスロープ等が出来るのだが、桜の小径をもう一度敷設し直しをして、その結果として非常に展望としても良いスペースとなる。これを付加するという事で、公園管理者とも検討して今この方向が出ている。同様に今回、西公園側というか川の左側、東側についても今回のことも含め公園管理者と相談し、展望というものがどういう風に位置づけられるかというような中で考えていきたいと思う。西公園再整備計画の中にも眺望、上段からの眺望ということが触れられていたやに思う。そのことも含めて、今後公園調整の中で展望というものがどのように位置づけられるかということ調整していきたい。</p>
<p>西村会長</p>	<p>ご質問の主旨は、恐らく西公園をどのように整備して利用していくかというようなことと合わせて考えてはというようなことではないかと思うが。</p>

田上委員代理	<p>本当はもっと国際センター側のこの周辺を活用するという記事を拝見したのだが。</p>
東西線建設本部 建設課	<p>失礼した。公園ということに頭が固まっていた。最近、仙台市の都市整備局の方で、地下鉄沿線の街づくりについて基本方針をリニューアルしたものを作っている。その中で、国際センターの地区において、この駅周辺をどういう視点でもって整備していくのかについて、議論があったことがマスコミ等に載ったかと思う。その中でも掲げられていることとしては、広瀬川との連携の中で眺望ならびに散策路などと連携したものとして、国際センター駅周辺を整備していくということが掲げられている。</p>
近藤委員	<p>最終的には展望スペースに大賛成である。理由は、友達が来たときに広瀬川はどこに行けば見られるのかと、よく聞かれる。広瀬川を見たいという時に、どこに連れて行こうかといつも悩む。大橋を渡った国際センターの眺望はすばらしい。ヤナギがあって上から見下ろすようになり、初夏も紅葉時期もすばらしいと思う。右に曲がれば桜の小径があり、それから左側の追廻住宅の整備計画も確かあったと思うが、あの辺を一つの公園として整備し、そうすると仙台駅からも近いし、案内するにもすばらしい所になるのではないかと思う。</p> <p>もう一つ希望を言うと、あの辺に広瀬川にじかに水面に下りて行ける道も一箇所あれば良いと思う。短時間で広瀬川を見て、新しい地下鉄を見て、あの辺の国際センター等とかを見るというのは、一つの観光客を案内するに良い所だと思う。眺望スペースを是非私は望んでいる。</p>
宮城副会長	<p>このいくつかの案は、基本的にこの地域が大都市の中の景観整備的なことがベースにある。そのときにいろいろな修景の手法があるが、いずれの方法も今お手元に回った凝灰岩の強度よりもはるかに頑丈なものができると思う。したがって、いずれの手法を用いても自然崖がだんだん浸食されて後退していくにもかかわらず、その人工構造物は残るという風なことだと思う。そうすると、例えば一番上のものだから自然にしたからいいだろうというふうには、実はそう簡単にならないということだと思う。いずれの手法にしても周りよりも頑丈なものができる訳だから、景観としての価値というのをもう少し集中的に議論した方がいい。そうすると、自然に似せるというのは例えばフォルム、松本前副会長が指摘したようだが、彼の言い方がこの場でよろしく出ているかなというように思う。例えば下の案があって、その上</p>

	<p>でその細かい造成構造をどうするか考えた方がいい。</p>
西村会長	<p>他に質問，意見はないか。展望スペース案がかなり支持されているが，それ以外の案の応援をしたい方はいないか。</p>
石黒委員	<p>展望スペース案を皆さん支持しているようだが，私は青年会議所で七夕花火まつりを主催している団体である。いつも景観について市民の方から苦情を頂いている。それは何かというと，樹木についてである。今，会長の方から他の案の応援ということがあったが，4番の展望スペース構築の案であれば。今こちらの資料を見る限りではP.10の資料を見ても実際多分P.10の資料を見る限り，展望スペースから下流の方をみるとやはり樹木が目につく。高さは，桜の小径側との高さと同じに合わせていくのか。今見ると西公園とそのままフラットで作るような展望案になっている。しかし，トンネル位置は下の位置なのでどの高さによるかによってもずいぶん景観が違ふと思うし，見る景観次第かと思う。その資料が是非欲しかった。判断しかねる。</p>
西村会長	<p>周辺との関係性が非常に大事だと思うので，次の審議会には出てくると思うが，今日の意見を踏えて次に少し詳しい設計になってくる段階では，是非そのところを集中的に議論したいと思う。</p> <p>他に意見，質問はないか。</p> <p>4番の展望スペースを中心としてさらに具体化し，次回一つにまとめて意見を集約したいと思う。</p>
	<p>(3) その他</p>
西村会長	<p>それでは「(3) その他」であるが，何かあるか。</p>
松澤委員	<p>追廻住宅が新田の方に移るが，その追廻の近くに五色沼と長沼というのがある。五色沼はそうでもないが下の方に長沼というのがある。それが時期によって臭いがある。行政からは，追廻住宅が新田の方に移転して青葉山公園を整備するとの話を再三聞いている。五色沼の上の方の植物園，東北大学の方からきている水もいろいろあると思うが，長沼の方の水質はどうなのか。今現在，水鳥が3，4羽泳いでいるが，行ってみると水草などがたくさんあって，遠くから見ると良いが近くから見るとちょっと支障をきたしている。</p> <p>もう一つは，追廻住宅の会長の方から行政の方にトイレの設置を再三お願いしていると思うが，この辺には国際センターの中のトイレしかないのでは，苦情などがあって使えなかったりしているという話を聞</p>

西村会長	<p>いている。ひとつよろしくお願ひしたい。</p> <p>他にないか。</p> <p>ーなしー</p>
西村会長 (司会)	<p>無いようなので、それでは本日の議事はこれで終了とし、マイクを事務局にお返しする。</p> <p>議事録の作成と公開について、事務局で原案を作成し、議事録署名人である西村会長と飯尾委員に署名いただき、委員の皆様へ送付する。</p> <p>次回審議会については、会長、副会長とも調整し、別途ご案内する。現時点においては、来年1月中旬から下旬頃を想定している。</p>
(司会)	<p>(閉会)</p> <p>以上で、第35回仙台市広瀬川清流保全審議会の一切を終了する。</p>

以上

この議事録について、会議のないように相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

仙台市広瀬川清流保全審議会署名委員

会 長 _____ (印)

委 員 _____ (印)